Analysis of pancreatic endocrine function in patients with IgG4-related diseases, in whom autoimmune pancreatitis was ruled out by diagnostic imaging

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/41975

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

論文内容の要旨及び審査結果の要旨

受付番号　医博甲第2446号　氏名　伊藤　直子

論文審査担当者　主査　井上　啓　印

副査　篁　俊成　印

谷内江昭宏　印

学位請求論

題　　名　Analysis of pancreatic endocrine function in patients with IgG4-related diseases, in whom autoimmune pancreatitis was ruled out by diagnostic imaging

掲載雑誌名　Endocrine Journal

平成26年掲載予定

【背景】IgG4関連疾患は血清IgG4の上昇とIgG4陽性形質細胞の臓器浸潤を特徴とする全身性疾患である．膵，涙腺，唾液腺，肺，腎，後腹膜，前立腺の障害を呈し，それらはステロイドによって改善する．IgG4関連疾患の中で膵病変を有するものは自己免疫性膵炎（AIP）とされ，他の病変と同様ステロイドが奏功する．一方，AIP以外のIgG4関連疾患の膵内分泌機能に関する報告はない．そこで今回，画像上AIPを否定しえたIgG4関連疾患の膵内分泌機能を評価した．

【対象と方法】2000年1月から2011年4月に金沢大学附属病院においてIgG4関連疾患診断基準等によりIgG4関連疾患と診断された36例中のうち，AIPを認めない28例を対象とした．糖負荷試験及びアルギニン負荷試験にて膵内分泌機能を評価した．

【結果】

1. 耐糖能異常・糖尿病合併の頻度：28例中23例に糖負荷試験を行い，DM12例，IGT4例，NGT7例であった．残り5例は既に糖尿病薬で治療中であった．2007年の厚生労働省の統計と比較すると，日本人一般人口に比して耐糖能異常及び糖尿病の頻度は有意に高かった．

2. 膵内分泌機能の評価：28例中19例にアルギニン負荷試験を行った．インスリン分泌能は全例で保持され，グルカゴン過大反応が10例で認められた．

3. ステロイド治療前後の耐糖能：28例中22例にステロイド治療を行い12ヶ月間観察した．22例のHbA1cは治療前6.4±0.8%，3ヶ月後6.8±1.0%（p=0.0368），6ヶ月後 6.7±0.8%（p=0.0417），12ヶ月後 6.5±0.8%（p=0.3422）であり，12ヶ月後には治療前値に復した．22例中11例は糖尿病治療を要さず，残り11例は糖尿病薬の継続あるいは新規投薬を要した．

【考察】本研究ではAIP非合併IgG4関連疾患の膵内分泌機能を報告した．AIP非合併IgG4関連疾患においてもAIPと同等の耐糖能異常を高率に合併することが確認された．AIPではインスリンとグルカゴン両者の分泌障害が惹起される．一方，今回の検討より，AIP非合併IgG4関連疾患では，インスリン分泌は保持され，グルカゴンが過大反応を呈することが特徴であり，AIPとは異なる仕組みで耐糖能異常が惹起される可能性が示唆された．

本論文はAIP非合併IgG4関連疾患における耐糖能異常を初めて報告したものであり，学位論文に値すると考えられた．